

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立南中学校 第1学年

| 教科 | 学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す) | 具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す) | 次年度に向けた 自己評価 (A・B・C) |
|------|---|---|----------------------------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査等における観点別の達成率は、知識・技能が約60%、思考・判断・表現が約70%であった。 漢字や語句の習得に課題がある生徒が25%ほど見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 覚えるべき事項（文法、漢字、表現技法等）は、授業のなかで声に出したり書き出したりするなど何度も繰り返し学習し、定着させ、知識・技能の達成率を70%まで引き上げる。 夏休み明けの漢字50問テストや、毎週1回の漢字10問小テストを行い、正答できなかった問題を中心にやり直しの提出を徹底し、定着を図る。 | |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査や小テストでの達成率は、知識・技能が約74%、思考・判断・表現が52%であった。 正負の数における四則の混じった計算が完全に定着していない生徒が約60%ほどみられる。 物事を論理的に考え自分の考えを表現すること、文章から数量関係を読み取り式を立てることに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ノートの記述や確認テストの結果から四則計算がまだ定着していない生徒を把握し、状況によって個別に指導したり、全体へ指導することによって定着度を60%まで引き上げる。 振り返りシートやレポート課題に数学的に表現させる作問を用意するなど、数学的な表現に慣れる機会を設ける。 | |
| (英語) | <ul style="list-style-type: none"> 英作文をする際に、主語、動詞、目的語の順番が定着していない生徒が60%ほど見られる。 教科書の主要語句のスペルが完全に定着していない生徒が全体で40%ほど見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 3単語英作文(He writes a letter.などの主語、動詞、目的語を伴う文をいくつか書かせる)を帯活動として毎時間行い、80%の生徒に作文の語順の感覚を身に付けさせる。 毎時間の課題の確認を丁寧に行い、70%の生徒が主要語句の正しいスペルを身に付けられるようにする。 | |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査、小テスト等において、地理的分野でのグラフや資料を読み取る技能に課題が見られる。 授業ワークシートの記述から、思考力・判断力・表現力等を発揮することに課題がある生徒が40%ほど見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 各単元の学習内容でグラフや資料の読み取りを取り入れた授業を行い、定期考査や小テストでの技能の達成率を70%まで引き上げる。 授業で習った内容について、自分の言葉で説明・表現する課題に毎回取り組ませる。また、定期テスト毎に振り返りやレポート課題に取り組ませ、思考・表現することに慣れる機会を設ける。 | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 小テスト（正進社 単元別プリント）での達成率は、生物分野72%、化学分野57%であった。このことから、生物に関する関心は高いが、化学分野などの思考が重要な分野は苦手である。 習った知識を元に、解決策を考えることに課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 知識や実験結果を活用できるよう、授業や実験の中で思考力を向上できるように、実験の方法を考えさせるなどの取組を行う。 実験のふり返りを丁寧に行い、苦手としている生徒も理解できるよう工夫する。 単元ごとの小テストを実施し、達成率60%以上を目指す。60%未満だった単元は復習を行う。 | |